

## 方言漫才について

福盛 貴弘

### On the comic dialogue in Japanese dialects called *hōgen manzai*

FUKUMORI Takahiro

#### Abstract

The purpose of this paper is to introduce the comic dialogue in Japanese dialects called ‘hōgen manzai’. ‘Hōgen manzai’ is the comic dialogue in Japanese dialects other than the Kansai dialect, the Tokyo dialect and Japanese as common language. This comic dialogue is classified as follows: (1) stand-up comedians speak in a native dialect, (1a) they talk to each other in their respective native dialects, (1b) one of them talks in his or her native dialect, (2) they tell a funny story about the dialect, (2a) they tell a funny story about the native dialect, (2b) they tell a funny story about the non-native dialect. Although there are few ‘hōgen manzai’ comedians now, it would be great if their number were to increase for new laughs in the future.

キーワード：方言漫才、上方漫才、関西弁、博多弁漫才、岡山弁漫才

#### 1. 序

現在の上方漫才は、基本的にはいわゆる関西弁によるかけあいでのしゃべくり漫才<sup>1)</sup>が主流である。一方で、東京漫才は東京弁あるいは共通語によるかけあいでのしゃべくり漫才である。では、近畿一円や東京周辺以外の出身者は、どのようなことばを用いて漫才をしているのか。大阪に来た者は出身がどこであれ基本的には上方漫才となり、東京に来た者は共通語による漫才となる。したがって、地方出身者で自身の母方言を用いて漫才をしている人は、多くはない。そういった中、自身の母方言を用いた漫才で、全国区として認知される漫才師が近年少数ながらも現れつつある。本

稿では、こういった背景を元に、方言漫才について、概説していく。

## 2. 方言漫才

方言漫才については、以下のように分類できる。

- (1) 演者が母方言でしゃべる漫才
  - a. 演者がそれぞれの母方言でかけあいをする漫才
  - b. 演者のどちらかが母方言でしゃべる漫才
- (2) 方言をネタとしてとりあげる漫才
  - a. 演者の母方言をネタとしてとりあげる漫才
  - b. 演者の母方言に関わらず、方言をネタとしてとりあげる漫才

本節では、それぞれに該当する漫才師とその漫才の特徴について、説明していく。

### 2.1. 演者の母方言でしゃべる漫才

しゃべくり漫才は、自身の母方言で自然に話しているようにみせるのが最もやりやすいと考えられる。エンタツ・アチャコ<sup>2)</sup>を嚆矢とし、いとこいし<sup>3)</sup>やダイラケ<sup>4)</sup>に脈々と継がれたしゃべくり漫才としての上方漫才、リーガル千太・万吉<sup>5)</sup>に代表されるしゃべくり漫才としての東京漫才は、それぞれの母方言による語形やイントネーションで話を進めていくところから始まっている。もちろん才能や努力が関わることは言うまでもないが、基準となる型が形成されるためには、自身の言葉でしゃべることが重要なのである。基準ができれば、他の芸人はそれぞれの運び方に対して模倣や借用や感化などを経て自身の型を形成していくことができる。よって、この2種については、演者の出身地を問わず、あとから続いていく芸人は多い。

そういった中で、いわゆる関西弁、あるいは東京弁や共通語以外の方言でかけあう漫才師は少なかった。地方の寄席や劇場にはいるはずだが、全国区の知名度で当該方言の方言漫才を確立させるにいたった漫才師は少ない。

#### 2.1.1. 博多弁漫才

九州出身の芸人として、博多俄の2代目博多淡海<sup>6)</sup>や、肥後俄のぼってん荒川<sup>7)</sup>といった俄師が、母方言そのままのしゃべりで全国区の人気を獲得した。ただし、全国放送のテレビやラジオで博多俄や肥後俄そのものが流されて有名になったわけではないので、舞台でのかけあいは知らない人の方が多いだろう。また、芸人による方言の普及には貢献したが、そもそも漫才師ではないので、方言漫才の確立には至っていない。

その後、1989年に福岡吉本ができたのが、博多弁漫才を拡げる契機となった。上京するか大阪に行くかといった選択ではなく、地元で芸人になるという機会が母方言

によるかけあいをやりやすくさせたのではないかと推測できる。もちろん、全国的に有名になるためには、最終的に東京に進出しなければならないのだが、結果として共に福岡出身の博多華丸・大吉<sup>8)</sup>によって博多弁漫才が全国的に認知されたと言える。ただし、華丸・大吉は2人ともが博多弁でしゃべってかけあいをするというスタイルではない。基本的に大吉は共通語あるいは大阪弁で話を運んでいき、コントの設定になった際に華丸に役が憑依して博多弁全開でしゃべるというスタイルである。華丸のアドリブに思わず素でツッコンでしまう時、あるいはコント設定の役に入った時に、時折大吉が博多弁になることはあるが、基本的には博多弁全開で進めているわけではない。どちらも博多弁のみになってしまうと、視聴者が何を言っているかが分からなくなってしまうのでやむを得ないことであろう<sup>9)</sup>。また、語形が全て博多弁になるわけではなく、イントネーションのみ博多弁であることが多い。以下では(1a)から(1b)への程度差として、大吉の博多弁が増える(3a)、大吉が若干博多弁になる(3b)、大吉がほぼ博多弁を使わない(3c)を例示する。なお、近年は(1b)寄りで進めることが多い。

(3a) 博多華丸・大吉による博多弁漫才「親戚の子を九州に迎え入れる」

大吉：なんか買<sup>う</sup>っちゃろうか

華丸：買<sup>う</sup>て

大吉：りんごあめでも買<sup>か</sup>う？

華丸：りんごあめかー あれビニールが飴と引<sup>つ</sup>付いて破りにくいけ よか

大吉：よか じゃあ、あのお面は

華丸：お面は一 サイズが顎にあわすと目にあわさんやろ 目にあわすと顎が出るやろ やめやめ

大吉：じゃあ、金魚でもすくう？ 金魚すくい

華丸：金魚すくいねえ 結局誰が餌やるて家族会議になるけえ よか

大吉：なしか じゃあ なんもされんやん そげなこといいよったら

『爆笑オンエアバトル』(2003/6/6 NHK)

(3b) 博多華丸・大吉による博多弁漫才「絵本の読み聞かせ」

華丸：よし、枕元で絵本を読んじゃろ

大吉：なに読んでくれるの

華丸：じゃあね、アリとキリギリス

大吉：すごい、外国のお話やん じゃあそれ使って読んでみて

じゃあ、おとうさん、がんばって寝てみるけ

華丸：遊びほうけてるキリギリスを尻目に、アリさんたちはせっせっせと働

いとります なあくさ あの 3時に砂糖積んだ2トン車が到着します  
たい それまでに10メートルばかり ちょっと余計に掘っというて  
よーい、若手、おまえたちアイスの棒運ぶのどんだけ時間かかりよると  
か おまえたちがタバコ吸うけやろうが ぐあんであ(?) はよ こー  
ちゃっちゃ運んでんしゃい  
あの現場監督 なんや 市役所の人が……

大吉：なんの話なん

『ネタ祭り! 2007 夏の陣 東西対抗お笑い GP』(2007/8/19 テレビ朝日系)

### (3c) 博多華丸・大吉による博多弁漫才「宴会の抜け出し方」

大吉：不自然だなあと思ったら、つかまえてもらっていいから  
お願いします

華丸：なるほどなるほど

みなさんのみますばい かんぱーい

大吉：かんぱーい あーー 今日このビールは格別においしいですなあ  
いやいや昨日飲んだビールより美味しく感じますよねえ  
果たして明日は今日より美味しいでしょうか

華丸：あの一、すいません、すいません、そろそろ僕この辺で失礼を……

『THE MANZAI 2014』(2014/12/14 CX系)

## 2.1.2. 岡山弁漫才

B & B (島田洋七・洋八)<sup>10)</sup>は、洋七が広島、洋八が岡山出身であったが、共にいわゆる関西弁でしゃべっていたため、上方漫才と言える。岡山出身の漫才師は、レズゴー長作<sup>11)</sup>、水道橋博士<sup>12)</sup>、次長課長<sup>13)</sup>、ハチミツ二郎<sup>14)</sup>などがいるが、彼らは岡山弁を前面には押し出していない。岡山弁をまじえたしゃべくり漫才は、共に岡山出身である千鳥<sup>15)</sup>によって全国的に認知されたと言える。ただし、演者のどちらかのみが常に岡山弁でしゃべっているわけではない<sup>16)</sup>ので(1b)ではないが、基本的には上方漫才による(1a)で話を進め、時折岡山弁が出てくるといったスタイルである。

### (4) 千鳥による岡山弁漫才「つれ」

大悟：ほんで全身真っ赤

ノブ：それ何? それ何?

大悟：こんなつらいことがあるとはわしゃ思わなかった。

ノブ：赤じゃー、つれが2人続けて赤じゃー お前島出身やなあ、そーゆー鳥か?

大悟：そーゆー鳥じゃ。

ノブ：そーゆー鳥かあ？

大悟：お客さんごめんなさい、漫才全部間違えた

ノブ：全部じゃないですよ、全部じゃないです。

大悟：わしが言いたかったんこういうことやねん

ノブ：どういうことやねん 『ドリーム東西ネタ合戦』(2016/1/1 TBS系)

### 2.1.3. 東関東方言漫才

栃木出身ではないが、言語形成期に疎開のため栃木に移り住み、母方言が栃木弁になった東京太<sup>17)</sup>は、漫才でも栃木弁であった。ただし、今の相方であり妻である東ゆめ子は福岡出身だが共通語で話を進めるため、典型的な(1b)である。同じく夫婦漫才師である新山ひでや・やすこ<sup>18)</sup>は、ひでやが栃木、やすこが茨城出身であるが、共に共通語で漫才を行なっているため、方言漫才とは言えない。一方で、共に栃木出身であるU字工事<sup>19)</sup>は、典型的な(1a)の栃木弁漫才と言える。

#### (5) U字工事による栃木弁漫才「関東のお荷物茨城」

福田：いやーぼくらですね、2人とも栃木県出身なんですけど

益子：そうですね、栃木で

福田：ねえ

益子：ほだねえ、茨城じゃないかんね、これね

福田：ねえ、まちがえられっちゃうんでね

益子：冗談じゃねえほんと、一緒にしてほしくねえや茨城なんかと

福田：やだよねえ

益子：そうだねえ、茨城なんか関東地方のお荷物って言われてんだから

福田：そこまで言うなよ

益子：茨城なんか水戸納豆におんぶにだっこだかんね

福田：やめとけつつんだ、怒られっから

(中略)

益子：それとなあ、群馬に住むのがどんだけつらいことかわかってんのか

福田：なんで群馬に移り住まなきゃいけねえんだ

益子：そらそうだろ、栃木も茨城も追い出されたら行くところ群馬しかねえだろうが

福田：そんなことねえべよ

益子：おめ、群馬なんか1個もいとこねえかんな

福田：いっぱいあっぺ

益子：ねえわ、風はつええし、山ばっかりだし、海はねえし

福田：栃木と全くいっしょだべな

『M-1 グランプリ 2008』(2008/12/26 朝日放送系)

また、共に茨城出身であるカミナリ<sup>20)</sup>によって、茨城弁漫才が耳に入るようになった。カミナリは、たくみが前面に茨城弁を押し出し、まなぶが基本共通語で話を進めつつ時折茨城弁をまじえるというスタイルである。よって、このコンビも典型的な(1a)というより、(1b)寄りのスタイルである。

(6) カミナリによる茨城弁漫才「川柳」

たくみ：ネクタイ、ネクタイで一句詠んで

まなぶ：できました 白いものより 回数が増えたよ 黒いネクタイ

たくみ：あれ、これもなかなかおもしろい

あれっしょ、結婚式行グ回数よりお葬式行グ回数増えちゃったよって

まなぶ：そう

たくみ：だから白いネクタイより黒いネクタイつける回数増えダよって

まなぶ：そう

たくみ：そういうことでしょ

まなぶ：そう

たくみ：なかなかおもしろい

まなぶ：すごいっしょ、おれ川柳得意なんだ

たくみ：こりゃ大したもんだ、すげえすげえすげえ

(まなぶの頭をひっぱたいてから) そういえば5・7・5じゃなくて

7・9・7だな なーんでおめえ全部2文字ずつ字余りしてんだよ

まなぶ：字余りも1つの技術だっぺ

たくみ：時々字余りするから趣あんだっぺ 全部字余りするバカいっか おめえ  
え 『M-1 グランプリ 2016』(2016/12/4 朝日放送系)

さて、カミナリについては、(1a)と(1b)を比べられる「アルファベットの伝え方」というネタがある。そこで、たくみのみが方言でしゃべる(1b)と、両者が方言でかけあいをする(1a)を示し、比較してみたい。

(7) カミナリによる(1b)タイプの茨城弁漫才「アルファベットの伝え方」

まなぶ：ねえねえ、たくみくん

たくみ：どうしたの、まなぶくん

まなぶ：電話で相手にアルファベットを伝えるときって難しいときあるよね  
たくみ：どういうことだ

まなぶ：たとえば、Aって言うてるのにKって聞こえたり

たくみ：うん

まなぶ：Bって言うてるのにDって聞こえたり

たくみ：あー Cって言うてるのにEって聞こえたり

まなぶ：うん、おれね、その防ぎ方知ってたよ

たくみ：どうやんの

まなぶ：そのアルファベットで始まる英単語を言えば相手に伝わる

「ネタバレ」(2017/11/3 CX系)

(8) カミナリによる(1a)タイプの茨城弁漫才「アルファベットの伝え方」

まなぶ：ねえねえ、たくみくん

たくみ：どうしたの、まなぶくん

まなぶ：電話で相手にアルファベットを伝えるときって難しいときあるよね

たくみ：なんだおめえ、ごじゃっぺぬかして、どういうことだそれ

まなぶ：たとえば、AつってるのにKって聞こえたり

たくみ：うん

まなぶ：BつってるのにGって聞こえたり

たくみ：あー、CつってんのにEって聞こえたりか

まなぶ：うん、おれね、その防ぎ方知ってたよ

たくみ：どうやんだおめえそれ

まなぶ：そのアルファベットで始まる英単語を言えば相手に伝わる

『にちようチャップリン』(2017/7/16 テレ東系)

『にちようチャップリン』では、「ふるさと愛満載！爆笑！ご当地ネタ祭り 第1回ふるさと自慢が大集合！なまって笑ってネタ祭り！」という企画があり、普段共通語で漫才をしているコンビは母方言をまじえて、方言漫才をしているコンビはより一層方言をまじえてネタを演じるという企画であった。その際に披露したのが、(8)である。普段は、たくみが茨城方言全開、まなぶは若干茨城弁イントネーションが残るものの基本的には共通語で漫才を進める。それが(7)である。

(8)では、でたらめ、間抜けという意味の「ごじゃっぺ」という語彙を使ったり、「っていってる」が「つってる」、「つたえるとき」が「つたえっとき」のように促音化したりすることで方言色を強めているが、それ以上に(8)ではまなぶも茨城弁イントネーション全開でしゃべっている点が音声情報として目立つところである。たとえ

ば、語形は同じでも、(7)と(8)では音調が異なっている。例えば、「電話で」なら、(7)では平板型アクセント+句末の強調型上昇調による「デンワ↑デ」であるのに対し、(8)では頭高型アクセント+句末が長音化した疑問型上昇調による「デ'ンワ↑デ」である。「はじまる」なら、(7)では平板型アクセント「ハジマル」であるのに対し、(8)では低起上昇式アクセント+句末が長音化した疑問型上昇調による「L0ハジマ<sup>ル</sup>」となっている。音調の観点から見れば、(5)(8)はイントネーションを含めた(1a)であり、(6)(7)は(1b)に近いと捉えることができる。

#### 2.1.4. その他

華丸・大吉や千鳥に比べたら、U字工事やカミナリの認知度はまだ低い。他にも方言でかけあいをする若手の漫才師はいるが、もっと知名度が低いため、知られていない。例えば、青森の南部弁漫才となるあどぼるーん<sup>21)</sup>がいる。

(9) あどぼるーんによる南部弁漫才「青森県のランク」

新山：向こうから東京来っから挨拶してみ

小野：あ、も、全然わかんね、東京来る [ɾ]<sup>22)</sup>てなによ

新山：おいす

小野：おいす

新山：ほされっぞ、おめえ

小野：ちょっと待テ、ほされんよ

新山：あいつはこの世界で頂点極めたオドコなんだ、おめえ

小野：おめえなにかいいてえ

新山：たとえばよ、向こうからビートたけしさん歩いてきておっすて言うガ

小野：言うわけねえ

新山：今それやったんだ、おめえは

小野：今そんな話なってんの

新山：だから [ɾ] いつまでたっても売れ [ɾ] ねえんだおめえ、このほんじゅなしが  
『にちょうチャップリン』(2017/10/8 テレ東系)

売れて全国的に認知されれば一つの型になるが、まだその域には達していない。これは沖縄弁漫才など他の方言についても同様であるため、紙幅の都合上割愛した。

#### 2.2. 方言をネタとしてとりあげる漫才

上方漫才では、東京と大阪を比べて大阪人の特徴を誇張して伝えるというネタを、矢野・兵頭<sup>23)</sup>、海原やすよ・ともこ<sup>24)</sup>など多くの漫才師がやっている。これは、方言



そのものというよりは人物描写に重きが置かれている。母方言そのものをネタとする(2a)の漫才については、東京や近畿圏以外の地域出身である若手がしばしばやっている。博多・大丸のネタにも、かつてはこの手の型のものがあつた。

(10) 博多華丸・大吉による「九州弁ニュース」

大吉：じゃあおれ標準語でニュースキャスターやるから

華丸：はいはい

大吉：おまえ九州弁でニュースキャスターを

華丸：やらさせていただきます

大吉：いきますよ まず最初のニュースです 今日未明東京新宿歌舞伎町にお  
きましてひき逃げ事件が発生しました

華丸：今日くさ 何時かは知らん

大吉：知らんの？

華丸：何時か分からんばってんが ひき逃げ事故ノありましたもんねー

ばしょアね 東京の新宿歌舞伎町でございまして 日本一の繁華街でござ  
います どんぐらい繁華街かと言いますとですね まあ中洲の5倍で  
すなあ 『爆笑オンエアバトル』(2002/9/7 NHK)

共に秋田出身のねじ<sup>25)</sup>によるネタとして、多くの人知っている場面のセリフを先に知らせ、その場面を秋田弁で演じるというものがある。例えば、『アルプスの少女ハイジ』における「クララのばか」を「クララのほんじゅなし」、『ONE PIECE』における「俺の財宝か、欲しけりゃくれてやる。この世の全てをそこに置いてきた」「おらのぜにこだか、ほせばけーてやす。なんもかんもぜんぶ、ぶんなげてきたが」のように訳すといったものである。基本的に非母方言話者にとっては早口で聞きとれない。文字起こしも母方言話者でなければ、書き起こせないネタが多い。よって、内容を聞きとってというよりは、よく分からないけど秋田弁でそんなふうに言っているのがおもしろいという笑いの取り方になっている。

共に沖縄出身のナインボール<sup>26)</sup>には「方言がきつすぎる沖縄料理店」というネタがあり、こちらはねじとは逆で、先に沖縄方言を聞かせ、相方が共通語に通訳するというスタイルである。こちらも、笑いの取り方は基本的に同じである。

(11) ナインボールによる「方言がきつすぎる沖縄料理店」

ヤッキー：いったー、くまにめんそーれ

もとよ：全員こっちに集合

ヤッキー：よしだ

もとよ : よしだくん  
ヤッキー : よしだはいちばんうっとうだから  
もとよ : よしだくんは一番新人ですので  
ヤッキー : オーダーをチャーとりー  
もとよ : オーダーをとることに専念をしなさい  
ヤッキー : して、チャーうごきー  
もとよ : そして、店内をひたすら動き回って  
ヤッキー : チャーすすめー  
もとよ : 積極的にあいてるグラスのお客様に新しいお酒をすすめてください  
太田プロチャンネル (2014/12/5)

これらに対して、(2b)は稀少である。有名なところでは、ミスワカナ・玉松一郎<sup>27)</sup>の「全国婦人大會」がある。このネタの背景として、ミスワカナが文字を読めなかった点が重要である。打ち合わせの際には、台本を読んでではなく、口頭で打ち合わせる。したがって、耳による記憶力が高かったということである。この能力が全国を巡業している際に活かされ、それぞれの土地の銭湯に入り、直接その土地の方言を覚えてきたのである。それをふまえたのが「全国婦人大會」であり、全日本銃後婦人会の総会で各都道府県の代表が挨拶をするという設定である。なお、ミスワカナはミスワカサによると広島弁が一番上手かったようである。筆者が聴取できる範囲では、(12c)の引用部分以外でも「けー」「じゃー」「じゃけー」「けんの一」「ゆーて」「でがーすがの一」「つかーさい」「きんさい」といった語形は使われていた。ただ、連母音「アイ」の融合は、「アー」ではなく「ヤー」であるので、安芸弁ではなく備後弁であると考えられる。

(12a) ミスワカナ・玉松一郎による「全国婦人大會」出雲弁<sup>28)</sup>

一郎 : えー、では、まず最初は山陰地方の代表、島根県人のやすぎぶしこさんでございます、どうぞ  
ワカナ : はい、あーらえっさっさーい  
一郎 : いや君、君、えっさっさっより演説をお願いしたいんですが  
ワカナ : あー、そーでっか  
一郎 : あーそーでっかじゃないがな、君  
ワカナ : えー、今私<sup>ワタシ</sup>が紹介にあずかーました、やすぎぶすこでございます  
一郎 : あー、ぶすこさんですかい  
ワカナ : えーっと、私<sup>ワタシ</sup>がこっち<sup>コツツ</sup>の弁天<sup>イェトクス</sup>へ特殊看護婦として派遣さーましたのは

一郎 : なるほど

ワカナ : えーと、いつごろだったかなー

一郎 : 忘れたんですか

ワカナ : あー、そげそげ

一郎 : そげそげ?

ワカナ : えー、一昨年オトトスの十二月ジュウスの十二日ジュウスの夜中ヌズの二時ごろだった

一郎 : ややこしいですな [https://www.youtube.com/watch?v=PggG\\_yiL9j8](https://www.youtube.com/watch?v=PggG_yiL9j8)

(12b) ミスワカナ・玉松一郎による「全国婦人大會」尾張弁

一郎 : 次は熱田神宮の所在地として有名な中京、名古屋の代表おわりさちこ女史デジャーヒョーをご紹介申し上げます、どうぞ

ワカナ : あたしシヨウキヤなも、今紹介にあずかりました中京代表のおわりさちこだにゃーもん

一郎 : いやー、もとはややこしいさあ

ワカナ : それではなも、ちっとばかりかいつまんで話しますみゃーかなもんキヤ

一郎 : どうぞお願いします。

ワカナ : お互いオタギヤによう、この際シヤあだハビイテで無駄を省いてまって

一郎 : なるほど

ワカナ : 身の回りもごく質素にして

一郎 : うん

ワカナ : あるったけきんの金は政府に売るみゃーかなもん

一郎 : そりゃそうですよ [https://www.youtube.com/watch?v=PggG\\_yiL9j8](https://www.youtube.com/watch?v=PggG_yiL9j8)

(12c) ミスワカナ・玉松一郎による「全国婦人大會」備後弁

一郎 : 次にご紹介申し上げますのは 中国山陽地方の代表 広島県の宮島タキノでございます

ワカナ : どうもありがとありがと

一郎 : いやいや

ワカナ : いまわたしタキノ紹介にあずかりました 宮島タキノですけど どうぞみなさん なにもゃーなもんじゃき かわいがってつかーさいや (中略)

銃後のオナゴの務めとしタキノゃー なんじゃーかんじゃーユウうても第二の国民を 立派に兵隊さんに育てあげることが 一番大切タキノセツじゃにゃーじゃろーかと うちタキノは思うんでがーすがのー

一郎 : よう、そんだけしゃべれますなあ

### 3. 結語

上方漫才や東京弁漫才以外の方言漫才は、まだまだ少ない。また、普段から共通語で漫才をしている漫才師にとっては、方言が邪魔になることがある<sup>29)</sup>。それぞれの漫才師にとって自身のことばで伝えるというのは、芸として難しいことである。ただ、話の基本線は、いわゆる関西弁による上方漫才や共通語による東京漫才で進め、会話部分で方言を出していくというのが、現状では方言漫才を活かす道ではないかと考えられる。その見せ方に芸人の腕が発揮され、これから新たな方言漫才師が出てくることを期待する。

### 参考文献

- 足立克己（1994）『いたい放題上方漫才史』東方出版  
 内海桂子・富澤慶秀（2002）『東京漫才列伝』東京新聞出版局  
 M-1 グランプリ公式サイト <https://www.m-1gp.com/>  
 大阪府立上方演芸資料館編（2008）『上方演芸大全』創元社  
 桂米朝・上岡龍太郎（2000）『米朝・上岡が語る昭和上方漫才』朝日新聞出版  
 戸田学（2016）『上方漫才黄金時代』岩波書店  
 福盛貴弘（2014）「大阪方言 2000 文」『一般言語学論叢』14: 1-151.  
 他 各所属事務所の公式サイト

### 注

- 1) 狭義のしゃべくり漫才は、話芸のみでかけあいを行ない、芝居の形式にもちこまない。よって、正統派漫才と呼ばれることがある。ただし、しゃべくり漫才の中に部分的に芝居形式が用いられることがあるため、本稿では、芝居の形式に持ち込むコント漫才を含めた広義のしゃべくり漫才として論じていくことにする。
- 2) エンタツ・アチャコ〈吉本興業〉1930-1934：横山エンタツ 1896-1971、兵庫県有馬郡出身。花菱アチャコ 1897-1974、福井県勝山市出身。上方しゃべくり漫才の祖。上方演芸の殿堂入り（1996）。
- 3) 夢路いとし・喜味こいし〈吉本興業→宝塚新芸座→上方演芸→大宝芸能〉1937-2003：夢路いとし（兄）1925-2003、神奈川県横浜市出身。喜味こいし（弟）1927-2011、埼玉県川越市出身。兄弟漫才師。上方漫才の宝。上方漫才大賞（1969）。大阪市指定無形文化財（1999）。上方演芸の殿堂入り（2004）。共に関東出身であるが、親が旅回りの芸人であったため、生まれた場所がそこであったということである。
- 4) 中田ダイマル・ラケット〈松永興業→朝日放送→松竹芸能→吉本興業〉1941-1982：中田ダイマル（兄）1913-1982、兵庫県川辺郡出身。中田ラケット（弟）1920-1997、兵庫県川辺郡

出身。兄弟漫才師。爆笑王。上方漫才大賞(1968)。上方演芸の殿堂入り(1997)。

- 5) リーガル千太・万吉〈リーガルレコード→漫才研究会〉1934-1962:リーガル千太 1901-1980、東京都出身。リーガル万吉 1894-1967、東京都出身。東京漫才の殿堂入り(2008)。
- 6) 博多淡海(2代目)〈淡海劇団→松竹新喜劇→松竹喜楽座〉1930-1981、福岡県出身。
- 7) ばってん荒川〈ばってん劇団〉1937-2006、熊本県出身。
- 8) 博多華丸・大吉(旧名 鶴屋華丸・亀屋大吉)〈福岡吉本→東京吉本〉1991-:博多華丸 1970-、福岡県福岡市出身。博多大吉 1971-、福岡県古賀市出身。THE MANZAI 2014 優勝。
- 9) 福盛(2014)でいうところの「よそいきの大阪弁」がこれに近い。いわゆる地元でなじみの人間と話す時の大阪弁ではなく、周囲に共通語話者が多い時に基本は大阪弁だが若干共通語に合わせるというのが、「よそいきの大阪弁」である。アクセントやイントネーションは、一部共通語音調が混ざってしまうが、ほぼ大阪アクセントであるため、共通語にスイッチしているわけではない。  
(1b)型の方言漫才は、共通語で話を運び、ところどころで方言をまじえる。この点は、全国的に分かるように伝えるために、かなりよそいきにしていると考えられ、先の「よそいきの大阪弁」よりもっとよそいきである。
- 10) B & B(3代目)〈吉本興業→戸崎事務所〉1975-1983, 1991, 1996-2007, 2012-:島田洋七〈吉本興業→戸崎事務所→東京吉本→島田オフィス→オスカープロモーション〉1950-、広島県広島市出身。島田洋八〈吉本興業→戸崎事務所→東京吉本→ポートレーブ〉1950-、岡山県笠岡市出身。お笑いスター誕生初代グランプリ。80年代MANZAIブームの牽引者。
- 11) レッゴー長作〈和光プロダクション→放逐芸能〉1943-2018、岡山県都窪郡出身。レッゴー三匹 1969-1990年代(相方はレッゴー正児、レッゴーじゅん)。上方漫才大賞(1973)。
- 12) 水道橋博士〈オフィス北野〉1962-、岡山県倉敷市出身。浅草キッド 1987-(相方は玉袋筋太郎)。
- 13) 次長課長〈大阪吉本→東京吉本〉1995-:河本準一 1975-、岡山県岡山市出身。井上聡 1976-、岡山県岡山市出身。
- 14) ハチミツ二郎〈トンパチ・プロ→オフィス北野→オスカープロモーション→フリー→東京吉本〉1974-、岡山県倉敷市出身。東京ダイナマイト(2代目) 2001-(相方は松田大輔)。M-1グランプリ 2004 8位、2009 6位。
- 15) 千鳥〈大阪吉本→東京吉本〉2000-:大悟 1980-、岡山県笠岡市北木島出身。ノブ 1979-、岡山県井原市出身。M-1グランプリ 2003 9位、2004 9位、2007 8位。THE MANZAI 2011 3位、2012 2位、2013 2位。上方漫才大賞(2013)。
- 16) ノブ:ネタの時はちょっと直さないと、あまりにも伝わらないことが。  
内村:千鳥もちょっと抑えめ、分かるような岡山弁。  
大吾:もっとことば汚いですね。 「にちようチャップリン」(2017/7/16 テレ東系)
- 17) 東京太・ゆめ子〈漫才協会、落語芸術協会〉1993-:東京太 1943-、東京都台東区出身。疎開先は栃木県真岡市。鶴田松夫・竹夫 1961-1963、東京二・京太(旧名 西若二・菊二) 1963-1985。東ゆめ子 1950-、福岡県北九州市出身。夫婦漫才。

- 18) 新山ひでや・やすこ〈プロモーション・ススム、漫才協会、落語芸術協会〉1994-：新山ひでや 1945-、栃木県足利市出身。新山えつや・ひでや（旧名新山えつや・東ひでや）1971-1992。新山やすこ 1949-、茨城県常陸太田市出身。
- 19) U字工事〈アミー・パーク〉2000-：福田薫 1978-、栃木県那須郡出身。益子卓郎 1978-、栃木県那須郡出身。M-1 グランプリ 2008 5 位
- 20) カミナリ〈グレープカンパニー〉2011-：竹内まなぶ 1988-、茨城県鉾田市出身。石田たくみ 1988-、茨城県鉾田市出身。M-1 グランプリ 2016 7 位、2017 9 位。
- 21) あどばるーん〈ソーレアリア〉2002-：小野ますのぶ 1981-、青森県八戸市出身。新山大 1981-、岩手県野田村出身。八戸市立白銀南中学校同級生。
- 22) ラ行音が有声歯茎ふるえ音で調音されている箇所、[r] を示している。
- 23) 矢野・兵頭〈大阪吉本〉1990-：矢野勝也 1970-、兵庫県尼崎市出身。兵動大樹 1970-、大阪府大阪市出身。上方漫才大賞（2009）。
- 24) 海原やすよ・ともこ〈大阪吉本〉1992-：海原やすよ（妹）1975-、大阪府寝屋川市出身。海原ともこ（姉）1971-、大阪府寝屋川市出身。姉妹漫才。上方漫才大賞（2012）。
- 25) ねじ〈ケイダッシュステージ〉2010-：せじも 1984-、秋田県出身。ササキユキ 1984-、秋田県出身。
- 26) ナインボール〈オリジンコーポレーション→フリー→太田プロ〉2005-：ヤッキー 1985-、沖縄県沖縄市出身。もとよ 1986-、沖縄県浦添市出身。
- 27) ミスワカナ・玉松一郎〈大八会→若菜万歳一座→吉本興業→新興キネマ〉1931-1946：ミスワカナ（初代、都家若菜、松竹ワカナ、玉松ワカナ）1910-1946、鳥取県気高郡出身。玉松一郎 1906-1963、大阪府大阪市出身。上方演芸の殿堂入り（1997）。
- 28) 文字起こしのたたき台については、池田彩子氏の協力を得た。この場を借りてお礼申し上げます。
- 29) 『にちようチャップリン』（2017/10/8）では、パンクブーブーやトータルテンボスが、ネタがしっかりしているだけに方言が邪魔だと指摘されていた。一方で、若手の双子漫才師ダイタクは、普段は共通語で演じているが、同番組同日の企画で母方言の熊本弁で演じた。筆者は、方言が邪魔にはならなかったという感想を持っている。
- パンクブーブー〈福岡吉本→東京吉本〉2001-：佐藤哲夫 1976-、大分県大分市出身。黒瀬純 1975-、福岡県糟屋郡出身。M-1 グランプリ 2009 優勝、THE MANZAI 2011 優勝。
- トータルテンボス〈東京吉本〉1998-：大村朋宏 1975-、静岡県御殿場市出身。藤田憲右<sup>けんすけ</sup> 1975-、静岡県御殿場市出身。M-1 グランプリ 2004 7 位、2006 5 位、2007 準優勝。
- ダイタク〈東京吉本〉2009-：吉本大（兄）1984-、神奈川県生まれ、熊本県熊本市育ち。吉本拓（弟）1984-、神奈川県生まれ、熊本県熊本市育ち。
- ダイタクの共通語と熊本弁による「兄貴」の一部を以下に記す。
- (13a) ダイタクによる「兄貴」
- 大：いやいや 家族は家族だから別にいいだろ
- 拓：家族って言うとさ 親父とかお袋の顔この辺に浮かんで 一致団結感が出て恥ずかし

いだろ

大：そう

拓：仮にすべてってみろよ 一家ごといかれてると思われるだろ

大：兄貴も入れてやれよ

拓：言うな

『本能Z』（2018/12/5、CBC）

（13b）ダイタクによる熊本弁漫才「兄貴」

大：家族は家族だけん別によかやろ

拓：そうばってんか 家族って言うと このへんに親父とかお袋の顔浮かんで 一致団結  
感出てちょっと恥ずかしかる

大：おお

拓：仮に今日すべてってみろ あの人たち一家ごといかれとらすと思われるよ

大：兄貴も入れてやらんね

拓：ああ、言わんでよか

『にちようチャップリン』（2017/10/8 テレ東系）